

宮古市版シュタットベルケを活用した電力の地産地消による電気バス運行事業(岩手県宮古市)

区分 **A 中小都市、過疎地など** (人口10万人未満の自治体) **事業経営基盤の改善・強化** **他分野による交通事業の活用** **エネルギー・環境 × 交通**

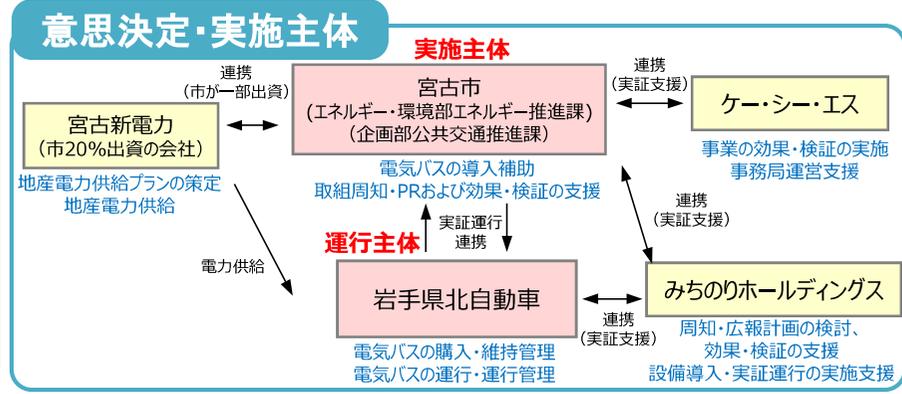
対象地域

- 地域：岩手県宮古市
- 人口：50,369人
- 世帯数：21,289世帯
- 高齢化率：38.0%
- 面積：1,259.15km²

シュタットベルケ：電力事業により一定の収益を確保し、同収益を活用して地域の抱える課題の解決に貢献する地域ソーシャルビジネス

背景・お困りごと

- 宮古市は**地域公共交通計画（令和5年10月策定）**を策定するなど、東日本大震災以降、鉄道・駅を中心とした街づくりに取り組んできたものの、**公共交通の利用者減少が課題**
- 宮古市版シュタットベルケの一環として、電力事業と路線バスの運行を結びつけるプロジェクトを立ち上げ、**住民は公共交通の利用者かつ担い手**という、**住民の自分事化の意識を醸成し、公共交通の利用を促進する必要があった**



実施内容

宮古市産の太陽光発電電力（地産電力）を用いて、宮古市内を有償で運行する路線バス（電気バス）を運行する電力としての活用や、電力事業の収益を子育て、教育などの地域課題の解決に活用

概要

- モード：路線バス（電気バス）(道路運送法第4条許可)
- 予約方法：予約不要
※通常の路線バスと同様の利用方法
- 料金：170円～
※対キロ区間制運賃

重要ポイント

- 市外から購入していた電力の一部を、市内の太陽光発電施設でつくる再生可能エネルギーに転換し、その電力で運行する電気バスに乗ることで、**電気の地産地消と宮古市にお金を残す地域経済の好循環がポイント**
- 住民への参加意識向上に向け、各家庭へのリーフレット配布やSNSでの発信、市民交流センター・学校でのリーフレット掲載、アンケート配布するなどの多くの場所で**普及促進活動を実施**

運行実績・成果

- 運行期間：2024/11/21～2025/1/31
- 利用者数：11,662名 ※宮古市内全域、SF・現金利用者（定期券除く）
- 平均乗合人数：182人/日

収入	(非公表)
支出	初期費用 106,354,056円 (車両購入費、充電器購入費、充電器設置工事費)
	ランニングコスト (運行費用、調査費用 等)
損益	(非公表)

成果

- リーフレッツの配布直後はバス利用者が増加し、市民の外出機会の増加や、公共交通の利用拡大に繋がった可能性があり、「公共交通の持続性向上」の実現に寄与したと考えられる
- バスの利用機会が増加しただけではなく、クルマの利用機会の減少にも繋がっている結果がみられ、CO2排出量5,344 [Kg-CO2/月] の削減にもつながっており、環境負荷の軽減にも寄与している

今後の事業展開

<今後の事業展開時の運行における根拠法令（予定）：道路運送法第4条許可>

- 実証事業の実施により得られた効果・課題等を定量的・定性的に把握するとともに、住民にも持続的な交通の担い手として当事者意識の醸成を目指しつつ関係者間で協議を行い、新たな取組を含めた具体的な方策についての検討・整理を行う予定

宮古市版シュタットベルケを活用した電気バス導入

更新日:2025年01月16日

ページID: 7837

宮古市版シュタットベルケ地域課題解決推進プラットフォーム(宮古市、岩手県北自動車株式会社、宮古新電力株式会社、株式会社みちのりホールディングス、株式会社ケー・シー・エス)は、国土交通省の「共創・MaaS モデル実証プロジェクト」に採択された実証事業として、「宮古市版シュタットベルケを活用した電力の地産地消による電気バス運行事業」を11月21日から開始しています。本実証事業は、宮古市産の太陽光発電電力(地産電力)を含んだ電力を利用した電気バスを宮古市内で運行するものであり、以下の二つの効果を見込んでいます。

1 電気バスの運行をきっかけに市民のバス利用を促進する — バスの利用者であり支え手でもある市民の意識にバスの重要性や必要性を訴え、利用を促すことで公共交通の持続性を高める。

2 再生可能エネルギーの地産地消により「宮古市版シュタットベルケ」を推進する — 市が出資するエネルギー事業の収益を様々な地域課題の解決に活用する。その一環として宮古新電力株式会社からの電力供給による電気バスを運行する。

～「宮古市版シュタットベルケ」について～

「宮古市版シュタットベルケ」は、再生可能エネルギー基金を設立し、宮古市がエネルギー事業へ出資し得られた収益をこの基金を通じて、市民の太陽光発電、蓄電池、バスなどの公共交通機関を含む電気自動車等の導入に対する補助のほか、将来的には子育て、教育などの地域課題を解決するための財源として活用する仕組みです。

1 実証事業の概要

宮古市内を運行する路線バスの車両の一部を電気バスに置き換えます。この電気バスは、宮古市内の太陽光発電設備で発電された電力を活用して運行しますので、電力の地産地消スキームの構築につながります。

○導入車両: BYD 製 小型電気バス J6 2.0

- ・乗車定員: 32名
- ・バリアフリー対応車両
- ・車椅子スペース: 1か所
- ・航続可能距離: 210km
- ・バッテリー: リン酸鉄リチウムイオンバッテリー・138.3kWh

○主な運行路線(2024年度の予定)

- ・宮古駅前～西ヶ丘
- ・宮古駅前～宮園団地
- ・宮古駅前～八木沢団地
- ・宮古駅前～千徳・岩船～花輪・長沢
- ・宮古駅前～シートピアなあと～浄土ヶ浜～宮古病院
- ・宮古駅前～小山田～松山
- ・宮古駅前～愛宕公園・宮古病院～崎山・休暇村
- ・宮古駅前～西ヶ丘～根市～茂市～湯ったり館

2 本事業の構成員と役割一覧

構成員	役割
宮古市	・電気バスの周知及び利用促進の取り組みの実施・支援 ・実証の効果検証の実施支援
岩手県北自動車株式会社	・電気バスの導入と維持・管理 ・電気バスの運行に必要な電力インフラ・設備の整備 ・電気バスの実証運行の実施
宮古新電力株式会社	・地産電力の供給プランの策定 ・地産電力の供給
株式会社みちのりホールディングス	・電気バスと電力インフラの導入支援 ・電気バスの実証運行の実施支援

構成員	役割
	・取組周知及び効果検証の実施支援
株式会社ケー・シー・エス	・事業の全体管理 ・実証運行のデータ分析及び評価、効果検証の実施

3 今後の展開

宮古市版シュタットバルケ地域課題解決推進プラットフォームは、宮古市民などが所有する太陽光発電により発電した電気や、新しく敷設される太陽光発電設備の電気を積極的に活用することで、電気の地産地消率ならびに再生可能エネルギー自給率の向上を図ります。これにより、公共交通の持続性の向上、子育てや教育などの地域課題の解決、自律的な地域経済の構築に貢献してまいります。

～地域公共交通共創・MaaS 実証プロジェクトについて～

国土交通省の公募型補助事業で、地域の多様な関係者の「共創」(連携・協働)により、地域公共交通ネットワークの「リ・デザイン」(再構築)を進め、利便性・生産性・持続可能性を高める必要があります。本事業は、こうした「共創」の取組に対し、その萌芽となる実証事業に対する補助を行うとともに、他の地域においても横展開を図り、共創の取組による地域公共交通の再構築を全国的に展開することを目的としています。

また、地域が主体的に、実情に応じた交通ネットワークを検討し実施するためには、地域全体をコーディネートできる人材の育成を図ることが不可欠です。そのため、こうした人材育成を行う事業についても支援し、地域公共交通の持続可能性を高めていくことを目的としている事業です。

4 ジャーナル誌の発行

電気バスの運行開始に伴い、ジャーナル誌を製作しました。

「宮古市版シュタットバルケを活用した電力の地産地消による電気バス運行事業とは？」

「電気バスはどの地域を走るの？運行時刻は決まっているの？」

「電気バスの特徴は？」

など、様々な情報を掲載し、全2回の発行を予定しています。皆様ぜひご覧ください！

・[MIYAKO EV JOURNAL Vol.1 \(2024年11月発行\)\(PDFファイル:19.4MB\)](#)

・[MIYAKO EV JOURNAL Vol.2 \(2024年12月発行\)\(PDFファイル:5.1MB\)](#)

5 問い合わせ先

・宮古市企画部公共交通推進課:0193-68-9134

・宮古市エネルギー・環境部エネルギー推進課:0193-68-9079

・岩手県北自動車株式会社:019-641-7770

・宮古新電力株式会社:03-5444-5835

・株式会社みちのりホールディングス:03-6250-1075

・株式会社ケー・シー・エス東北支社:022-224-1591

	<p>PDFファイルを閲覧するには「Adobe Reader(Acrobat Reader)」が必要です。お持ちでない方は、左記の「Adobe Reader(Acrobat Reader)」ダウンロードボタンをクリックして、ソフトウェアをダウンロードし、インストールしてください。</p>
---	--